



学校だより小雀

令和3年7月20日発行

8月号

横浜市立小雀小学校

ホームページ: <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kosuzume/>



走れよ！メロス ～見方・考え方を働かせて～



校長 今野 敏晴

21日から37日間の夏休みに入ります。長い休みですので、まずは、規則正しい生活を心がけ、夏休みにしかできない挑戦をして、楽しい思い出をたくさんつくってほしいと願っています。

夏休みの学習の中に自由研究があります。少し前の話になるのですが、中学2年生の男子生徒が、太宰治の「走れメロス」に関する研究で賞をとったことを思い出します。理数教育研究所が「自分で見つけた問題を自分で解く体験になれば」と算数・数学の自由研究を募集し、優秀作品が公表されていました。

国語の時間に「走れメロス」を学習し、メロスがどの程度のスピードで走ったのか疑問に思い、小説中の言葉を手掛かりに数学的に解明することに挑戦しました。まず往路。村と市の片道は「十里」と書かれており、約40km。メロスが市を出発したのは「初夏、満天の星」から午前0時を推定。村への到着は「日はすでに高く、村人たちは野に出て仕事を始めていた」より午前10時と推定。結局、メロスは40kmの道のりを10時間で移動したことになり、そのスピードは、時速4kmだから、「メロスは歩いていた？」と驚きます。同様に復路を調べます。作品の場所が仙台とほぼ同緯度であることから日の出の時刻を突き止めます。さらに文章の言葉から分析して計算し、当時の道路状況や途中の様々な事情も考慮の上どりついた結論は、往路平均時速3.9km、死力を尽くしたラストスパートでも時速5.3km。大人が普通に歩く速さの時速4kmと比較し、考察は、「今回調べてみて、メロスは全力で走っていないことが分かりました。『走れメロス』というタイトルは、『走れよ！メロス』の方があっているなと思いました。」と結んでいます。

好奇心、柔軟な発想力、そして、数学的なアプローチの見事さに感心します。この生徒の素晴らしいところは、感想に「ラストスパートでは『沈んでいく太陽の10倍で走った』と逆に速そうな文章もあったので、また調べてみたいです。」とさらに追究を深めようとする姿勢です。このスピードを確かめた方もいて、こちらは、マッハ11、100m走だと0秒02。メロスがこの速度で走ると衝撃波で周りの物は破壊されてしまうそうです。こちらは例えるなら「走るなメロス」になります。

今、学校の授業では、それぞれの教科で、見方・考え方を育てることを大切にしています。見方・考え方とは、教科ならではの学習対象への関わり方やアプローチの仕方です。見方・考え方を働かせ、単に課題を解決するだけでなく、日常にある様々な事例と結びつけながら理解を深めたり、汎用力（いつでもどこでも活用できる力）をつけたりすることを目指しています。前述の生徒は、算数で習った速さという見方・考え方を働かせて課題解決を試み、今までだれも考えつかなかった「メロスは速く移動していない」という新しい気づきを得ています。

学校で学んだことが、子ども達の“生きる力”となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしいと思っています。夏休みは、普段の生活や学習の中でふと疑問に思ったことを調べたり、好きなことや興味のあることに夢中になって取り組んだりするチャンスです。夏休みは、先生のいない時間です。この自分と向き合い、自分で考え行動することのできる大切な時間を、夏休みこそその機会であると捉えて、様々なことに挑戦してほしいと思います。

ご家庭では、夏休みの生活や学習のルールを子ども達と確認していただき、学習習慣の継続、休み前までの復習、読書の勧めと共に7月までに学校で学んだことをアプローチとして、夏休みにしかできないことにチャレンジできるようお声かけいただければ幸いです。